

下り口説 (くだいくどうち)

本調子

2/2

一、さても旅寝の假枕 夢の覚めたる心地して 昨日今日とは思へども最早九十月なりぬれば

二、がてお暇下されて使者の面々皆揃て 弁財天堂伏し拜で

三、いざやお仮屋立出でて滞在の人々引連れて行屋の浜にて立ち別る

四、名残り惜しげの船子共 喜び勇みて 帆を揚げの 祝の盃めぐる間に

五、山川港にはい入れて船の検めすんで また錨引き乗せ真帆引けば

六、風やまともに子丑の方 佐多の岬も 後に見て七島渡中も安々と

波路はるかに眺むれば 後や先にも 友船の帆引き連れて走り行く

道の島々早やすぎて伊平屋渡立つ波 押し添へて残波岬にはいならで

あれあれ拝めお城もと 弁のお岳も 打ち続き(エイ)袖を連ねて諸人の 迎へに出でたや三重城